

◆地域活動

平成16年度魚類養殖生産者会議

牧野清人

平成17年2月21日に本部漁業組合2階ホールにて平成16年度魚類養殖生産者会議が開催された。水産試験場川崎一男場長の挨拶に続き、議事となった。漁場環境調査報告では、北部地区の数カ所で水質、底質が汚染の危機にあることが指摘され、対処方法について検討すべきとの説明がなされた。普及センター小澤普及員による「養殖日誌による経費削減について」の説明では、養殖管理記録による経費削減の重要性について実際に付けている例を挙げ、また金額を計算してその効率について述べられた。水産試験場玉城主任研究員による「平成16年度の魚病発生状況について」の報告では、魚類輸出入に関して国の規制が今後厳しくなる話から始まり、今年度の魚病発生状況では、類結節症等による被害の拡大の他、耐性菌の発生について説明があった。その対策としては、日頃からの管理に重点を置き、魚病発生がある程度予想される時期に幾つかの対処をすることと、やはり管理記録等の重要性を述べられた。その後、水産課より種苗配布に関する注意点について説

明があり、全体討議に移った。昨年につづき、本年度も生産者の顔ぶれが少なく、その点についても指摘があり、今後は生産者自身での協議会を立ち上げられるようもり立てていきたいとの話も出た。質疑では、養殖漁場環境汚染に関して糸満と運天原の違いについてや、COD、TS、DOの変化が環境にどう影響するか、魚病に関して耐性菌にはどういった対応をすればよいのか、ビタミン剤はいつの時期に与えたらよいのか、運天港の工事が魚にストレスを与えている事実を解明できないかといったことについて意見を求められた。また、県栽培漁業センターに対してはハマフエフキ種苗配布の時期についての質問や、スギ種苗配布を8月までに終わらせて欲しいとの要望があった。流通、加工、販売の現場からも業者等から安定した製品を安定供給する重要性が述べられ、生産者も納得させられたところがあったように思われる。最後に普及センター瀬底正武センター長の挨拶で会議が締めくくられた。



図1. 魚類養殖生産者会議の様子



図2. 全体討議の座長を務められた亀里氏